



家庭科におけるシティズンシップ教育実践を展開する教師の姿勢と役割：  
小学6年生を対象とした授業実践より

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 土岐, 圭佑, 坂下, 眞美, 山崎, 博幸 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/0002000104">https://doi.org/10.32150/0002000104</a>

# 家庭科におけるシティズンシップ教育実践を展開する教師の姿勢と役割

— 小学6年生を対象とした授業実践より —

土岐 圭佑・坂下 眞美\*・山崎 博幸\*

北海道教育大学教育学部釧路校家庭科教育学研究室

\*北海道教育大学附属釧路義務教育学校

## Attitudes and Roles of Teachers to Develop Citizenship Education Practice in Home Economics

— From Class Practice for Sixth-Grade Students —

DOKI Keisuke, SAKASHITA Mami\* and YAMAZAKI Hiroyuki\*

Department of Home Economics Education, Kushiro Campus, Hokkaido University of Education

\*Kushiro Compulsory Education School of Hokkaido University of Education

### 概 要

本稿では、小学6年生を対象とした家庭科におけるシティズンシップ教育実践の展開過程に基づく授業の構想・実践を通して、授業の中での教師の姿勢と役割を検討することを目的とした。

その結果、授業実践から、①児童の私的で多様な生活経験や生活実感及び既存の知識を尊重し、それらを起点とした対話的な授業展開を重視する教師の姿勢、②児童の私的で多様な生活経験や生活実感及び既存の知識に基づく個人の考えとクラス全体、社会的課題、問題の争点とをつなぐ教師の役割、という点が重要であることが示唆された。また、本稿の目的と結果を踏まえた今後の課題として、空間軸の対象が地域や社会に拡張した授業の主題を扱う場合、教師は、児童たちが問題解決の見通しや展望をもって学習に取り組めるために、どのような姿勢をとったり役割を果たしたりすることにより、どのような学習空間の形成を志向することが必要なのか検討することを挙げた。

### 1. 目 的

2006年に経済産業省のシティズンシップ教育と経済社会での人々の活躍についての研究会が発表

した「シティズンシップ教育宣言」を契機に、日本の学校教育においてもシティズンシップ教育実践に関する研究が様々な教科等で積み重ねられてきた。

家庭科におけるシティズンシップ教育実践の特徴は、私的な生活に寄り添った問題解決学習の展開や教室内に構成された公共空間において自分の問題を社会との関係でとらえる能力と実践的態度の育成、知識だけではなく市民としての行為や行動の技能及び態度の育成という点が挙げられている<sup>1)</sup>。一方、家庭科におけるシティズンシップ教育実践の課題は、私的な生活の中から問題を見いだし、その問題に対する様々な意見を出し合い、それに対して共感したり批判したりするといった議論や対話への取組だと指摘されている<sup>2)</sup>。

この課題を受け、土岐<sup>3)</sup>は、家庭科におけるシティズンシップ教育に関する先行研究の知見を踏まえながら、「①問題への着目→②現状把握・分析→③問題の特定→④解決の選択肢を出す、解決の選択肢検討→⑤決定と行動・省察<sup>4)</sup>」という5つの過程（以下、家庭科におけるシティズンシップ教育実践の展開過程）に即した授業展開を仮説的に提起した。この家庭科におけるシティズンシップ教育実践の展開過程で教師がとる姿勢と果たす役割を具体的に検討するために、土岐ら<sup>5)</sup>は前記の展開過程に基づく授業を構想・実践し、①児童の私的で多様な生活経験や生活実感を尊重し、それらを起点とした授業展開を重視する教師の姿勢、②児童の私的で多様な生活経験や生活実感に基づく考えと学級全体、問題の解決、授業後の学級生活及び学校生活とをつなぐ教師の役割、③児童の考えを可能な限り実現させる教師の姿勢、という3点が重要であるという知見を示したが、更なる実証を通じた検討の積み重ねが求められる。

本稿においても上記の研究と共通の関心のもと、家庭科におけるシティズンシップ教育実践の展開過程に基づく小学6年生を対象にした授業の構想・実践を通して、授業の中での教師の姿勢と役割を検討することを目的とする。

## 2. 対象と方法

授業は、A大学附属B学校の6年2組34名を対

象とし、2022年10～11月に対象クラスの担任が実施した。授業は全4時間構成とした。本研究者は授業を参与観察し、デジタルビデオカメラで録画記録をとった。分析データは、授業の参与観察記録4時間分と録画記録を文字化した逐語録4時間分とした。逐語録作成に際して、個人情報を含む発話は、個人の特定を避けるために意味内容を損なわないように修正した。

分析の手順として、まず、逐語録には、各授業における各々の発話に対して、例えば、授業が始まって最初の教師の発話を「T1」、授業が始まって2番目に出た児童の発話を「C2」といったように、順々に番号を振った。4時間の授業を通した発話数は、教師が950回、児童が1958回、ゲストティーチャー（A大学の教員）が59回であった。次に、各逐語録から、家庭科におけるシティズンシップ教育実践の展開過程にかかわる場面を抽出した。その上で、各場面での発話に基づき、教師は、先述した5つの過程を経て授業を展開するために、どのような姿勢をとったり役割を果たしたりしているか、という視点に着目して分析と考察を行った。

なお、本研究は、北海道教育大学研究倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号 2021104003）。

## 3. 授業概要

授業概要は、表1に示す通りである。

表1 授業概要

時間	内 容
1	目標：魚食が減っている現状を知る。 ①日々の暮らしを振り返り、私たちは家庭だけではなく地域でも生活していることを認識する。 ②私たちにとっての地域はどこか考え、当該地域の基幹産業として水産業に着目する。 ③クラスとしての魚食の状況（頻度や嗜好など）を把握する。 ④ゲストティーチャーから説明を受けた魚食に関する全国的な状況（水揚げ数量、

	生鮮魚介類と生鮮肉類の購入量・購入金額・全国平均小売価格)を踏まえて、全国的に魚食が減少していることに対する自分の考えを整理し、魚食の減少理由を考える。
2・3	<p>目標：魚食の減少理由を調べ、授業で探求していくテーマを決め、魚食を増やすための方法を考える。</p> <p>①魚食の減少理由を調べ、わかったことを出し合い整理した上で探求テーマを決める。</p> <p>②魚食を増やすための方法を検討し、ロイロノート・スクール<sup>*1</sup>のカードにまとめる。</p>
4	<p>目標：魚食を増やす方法を発表し、学習の成果を振り返ることができる。</p> <p>①各自で考えたアイデアを発表し合い、個人でできることや企業でできることに整理する。</p> <p>②学習の成果を振り返り、これからの生活で生かしていきたいことなどを考える。</p>

1時間目の授業において、まず、児童たちは、普段何をしているのか振り返り、そのことから自分たちの生活は家庭だけではなく地域においても営まれていることを確認した。次に、児童たちは、教師の問いかけをきっかけに自分たちの地域はどこか確認した上で、当該地域で有名な産業を考え、水産業という意見が多く挙がった。教師はこうした意見に基づき、魚介類を食べる頻度や好みを児童たちに尋ね、魚介類をほぼ毎日食べている児童がいるものの、多くの児童は1週間の中で魚介類をほぼ食べていないこと、刺身は好きだが焼き魚は嫌いななどの状況を確認した。その上で、児童たちは、ゲストティーチャーから説明を受けた魚食に関する全国的な状況と自分たちの魚食に関する状況を照らし合わせて、魚食の減少という問題が生じる理由を考え、ロイロノート・スクールのカードに打ち込み、全体で共有・検討した。

2時間目の授業において、まず、児童たちは、前時の学習を振り返った上で、再度魚食の減少という問題が生じる理由を検討し合った。教師は、児童たちから出てきた考えをカテゴリーごとに分けて整理した。その上で、児童たちは、魚食の減

少という問題についてインターネットを使いながら情報を集め、探求テーマを決めた。

3時間目の授業において、児童たちは前時の学習を振り返った上で、魚食の減少という問題を解決するための実現可能な方法を個人で考え、その考えをペアで共有し合い、ロイロノート・スクールのカードにまとめた。

4時間目の授業において、児童たちは、前時にまとめた魚食の減少という問題を解決するための方法をグループの中で発表し合った。その内容を全体で共有し、個人でできることと、企業としてできること、児童自身ができることに整理した。

#### 4. 結果と考察

ここでは、家庭科におけるシティズンシップ教育実践の展開過程にかかわり抽出した逐語録を示しながら、「2. 対象と方法」で述べた視点に基づき分析と考察を行う。なお、逐語録に記した括弧内の記述は、各発話の内容や状況を補うためのものである。また、教師の発話の中に「○○さん」などの記号を用いた表記がある。これらは、教師が児童の考えの確認のために呼んだ児童の名前を指す。

##### (1) 「①問題への着目」・「②現状把握・分析」・「③問題の特定」

表2は、「①問題への着目」と「②現状把握・分析」及び「③問題の特定」にかかわる1時間目の授業場面の逐語録を示したものである。

表2 「①問題への着目」・「②現状把握・分析」・「③問題の特定」にかかわる授業場面①

逐 語 録
T234: 今、(個人でロイロノート・スクールのカードに)書いたの途中でもいいので、なんで今、魚食が減っちゃってるのか、その原因として考えられることを自分のペアと見せながらでもいいから、しゃべっててください。(児童たちペア活動)
…(中略)…

T237: 今、聞いてて、なるほどと思ったペアいる？  
自分の発表じゃなくて、この人なるほど、  
なんかいいこと言ったっていう。  
C582: (C590さんが) なるほどだった。  
T238: C590さん、なるほど？  
… (中略) …  
T241: C590さんちょっと教えてください。  
C590: (カードを黒板横のテレビに映して) 例え  
ば、4人家族だった時に、魚を買って焼き  
魚を作るとしたら、4人分いるから4匹買  
わないといけなけれど。例えば、ハンバー  
グを作るとしたら、ひき肉を1パックとか  
2パックとか買ったら、もうすぐそれで足  
りるから、肉の方が安いと思う。  
T242: なるほどね。  
C591: やばすぎだろ。  
C592: めっちゃ理論的。  
T243: 確かにそう。値段の問題がある。  
C593: 理論的だな。さすがC590。  
… (中略) …  
T248: あと、なるほどあった？  
… (中略) …  
T249: はい、C605さんどうぞ。  
C605: (カードをテレビに映して) 家族と外食っ  
てなって、魚を食べに行くっていうのがそ  
もそもない。食べに行くって雰囲気じゃな  
いんだけど、そうならない。  
C606: なんで、そうならないの？  
C607: (C605の続きで) ならないし、お腹いっば  
いになりに行くってなったら、肉ってう  
か焼き肉とか、満腹度が高いなと思って。  
C608: あー。  
T250: あー。  
C609: 肉の印象が強くなって。  
C610: でもなんかさ、魚が嫌われてるわけじゃな  
い。和食が嫌われている。  
T251: あ、和食自体が嫌われてるんだ。  
C611: えっ、日本人なのに。  
C612: (C607の続きで) しかも (肉は) 安いし。  
魚高いし。  
T252: やっぱ高い？  
C613: 寿司は食べに行くんだけど、  
C614: うんそう  
C615: (C613の続きで) 焼き魚みたいなのは食べに  
いかない。  
… (中略) …  
T266: ちょっと、C646さん。言ってもらって  
いいですか。  
C645: (テレビに映し出されたC646のカードを見  
て) おっ、すごいな。  
C646: (カードをテレビに映して) 地球温暖化と  
かで魚減少してるから、魚が高くなって、  
外国のお肉は安いから、日本の高い魚より  
安い外国の肉を買ってしまう人がいるの  
かなあ。

T267: なるほどね。やっぱり、お金の面もあるの  
かなあ。  
… (中略) …  
C652: でもさ、夕食は魚だよって言われるのとさ  
T270: イェーイってなる？  
C653: (C652に続き) 肉だよって言われたのなら  
肉になる。  
… (中略) …  
C657: 確かに、焼き魚だよ、はなんかちょっとテ  
ンションが下がる。  
C658: そう。焼き魚だよ。  
C659: まだ肉の方が食べれる。  
T273: なんで、そうなっちゃってるんだらうね。  
ちょっと〇〇さん、面白かったんだけど。  
(〇〇さんのカードをテレビに映して) 骨  
があるから、食べるのが減ってるんじゃない  
か。  
C660: 肉もあるだらう。  
C661: (魚の骨をとるのは) 面倒くさい。  
C662: (C661の発言は) 確かに。  
… (中略) …  
C667: (〇〇さんのカードに書かれている内容を  
見て) 見た目。  
T276: 見た目。魚の見た目ってどう？  
C668: かわいいじゃん。  
T277: やだ？魚の見た目。  
C669: 何？ぎょろぎょろ目玉。  
C670: 気持ち悪い。  
T278: 子どもは苦手なの？魚。  
C671: え、好きじゃない。  
… (中略) …  
C672: (教師がテレビに映した別の児童のカード  
を見て) おー、いっぱいある。  
C673: いやー、こんなに書いてるなんて素晴らし  
い。  
… (中略) …  
T281 (C672と同じ画面を見て) ちょっと、これ  
どう？調理が肉の方が簡単。  
C675: まあまあ。  
C676: 焼く。  
C677: 焼くだけじゃないじゃん。  
C678: 魚は骨を取って。  
C679: でも、魚焼くだけじゃん。  
C680: 目玉取らないと。  
T282: 焼くだけのもあるけどね。

上記の場面は、児童たちが、1時間目の授業で  
クラス全体としての魚食の状況とゲストティー  
チャーから説明を受けた魚食に関する全国的な状  
況を重ね合わせて魚食の減少という問題に着目し  
た上で、教師の問いかけをきっかけになぜ魚食が  
減っているのか個人で考え、全体で共有・検討し

ているところである。

魚食の減少理由として、児童からは、魚より肉の方が安く買えるからという意見（C590, C646）や、外食時に魚より肉を食べた方が満足するからという意見（C607）が出た。また、夕飯に魚が出るより肉が出た方が嬉しいから（C652・C653, C657, C658, C659）という意見が出され、教師はそれを受けて、魚より肉が好まれている理由の検討をさらに進め、魚の骨をとるのが面倒だからという意見（T273, C661, C662）や魚の見た目が気持ち悪いと感じる人もいるからという意見（C667, C670）、魚より肉の方が調理が簡単だから（T281）という意見が出された。

以上より、当該場面において、クラスとして魚食の機会が少ない児童が多いことや魚食が減っていることが社会的課題となっていることを重ね合わせて魚食の減少という問題の存在を見いだした児童たちは、その問題の生じる理由について各々の生活経験や生活実感に基づき考え自由に表現し合っていることがうかがえる。その要因として、分析データに基づくと、教師が、それぞれの児童の生活経験や生活実感に即した考えを言葉だけではなくロイロノート・スクールのカードも介して自由に表現して共有できる機会を確保し、各々の考えを尊重する姿勢を示したことで、児童の発話を復唱し、共感したり問い返したりしてクラス全体で検討できるように対話を進めていたことが挙げられる。

こうした1時間目の授業展開の続きとして、2時間目の授業でも魚食の減少理由を考え、クラス全体での共有・検討を通してまとめていった。それに該当する場面を以下の表3に示す。

表3 「①問題への着目」・「②現状把握・分析」・「③問題の特定」にかかわる授業場面②

逐語録
T423：ということで、今いろいろ出てきましたが、なんとなくジャンルで分けてみたんだけどさ。ここジャンルで名前つけるなら何？
C977：面倒くさい。手間。
T424：面倒くさい。

C978：面倒くさい。  
 T425：手間。  
 …（中略）…  
 T427：ちなみに、△△さんは、喉に骨が刺さったことがあるんだっけ？  
 C982：俺も保育園の頃ある。  
 C983：俺、エビフライの尻尾が喉に刺さって。  
 C984：なんかさ、4年生の時に骨刺さって泣いてる人いた。  
 T428：いた？  
 C985：保健室まで連れていかれて。  
 T429：それ（骨が喉に刺さること）って、肉で聞いたことある？  
 C986：ない。  
 …（中略）…  
 T431：じゃあ、ここ（の理由のジャンル分けを）どうする？あまりたくさんはなかったけど。  
 C988：値段。  
 C989：お金が高い。  
 T432：お金。値段。お金系のジャンル。  
 C990：日本の文化だからさ、外国とかで買ったら高いんじゃないの。  
 T433：日本の文化ね。日本の文化なのに、こんな状況なんだよね。さあ、これタイトルつけるならどうする。  
 C991：肉派。  
 …（中略）…  
 C994：逆にみんな、なんで魚嫌いななの？  
 C995：嫌いではない。  
 C996：嫌いとかじゃなくて、あんまり食べたいて思わないの。寿司食べたいとは思うよ、確かに。  
 …（中略）…  
 T435：ちょっと待ってよ。（魚を）嫌いではないんでしょ、みんな。嫌いではないのに、なんで食べないの？  
 C999：アニサキスが入ってるから。  
 C1000：やっぱ、肉の方がおいしいから。  
 C1001：だよな。  
 C1002：お腹空いた、魚食べようとは思わない。  
 T436：肉食べようとも思わくない？嫌いではないけど肉派の人C1003さんなんで？  
 C1003：お腹空いたってなって、例えばだけど、肉食べたいと思うんだけど、魚を食べたいとは。寿司とかはたまにあるんだけど、焼き魚食べたいみたいのはない。  
 T437：なんで？  
 C1004：いや、うーん。いや。サンマは食べたい。  
 …（中略）…  
 T440：嫌いではないのに、なんで食べないんだろう。  
 C1008：なんか、肉の方がおいしい。  
 T441：なんで？

C1009：いや  
 … (中略) …  
 C1012：身長を伸ばしたいから。  
 C1013：筋肉，身長。  
 C1014：成長したい。  
 T444：今，C1015さん言ったけど，肉はとりあえず買っというて，何にしようかなとか。  
 C1015：考える。  
 C1016：肉の方が長持ちするけど。  
 T445：肉の方が長持ちなの？じゃあ，そっか，魚は長持ちしない。  
 C1017：(肉は) 結構，賞味期限過ぎても。  
 T446：あー。  
 C1018：(魚は) 鮮度が。  
 C1019：確かにそうだね。早く食べないと鮮度が落ちちゃう。  
 T447：じゃあラスト。これ(理由のジャンル分けを) どうしようか。  
 C1020：料理が少ない。  
 … (中略) …  
 C1026：魚の加工品とか(使えばいい)。  
 T452：あ，加工品。なんかいいアイデアかも。  
 T453：じゃあ，今，大まかにまとめたんですが。魚食が減ってる理由は，料理のレパートリーが少なく，肉派の人が増え，お金もかかり，手間もかかるから，離れていく。

上記の場面で，教師は，児童から表出された魚食の減少理由をまとめていった。その中で，児童からなぜみんなは魚が嫌いなのかという疑問が出された(C994)。それに対して嫌いではなく食べたいと思わない(C995, C996)という意見や肉の方が食べたいと思うという意見(C1003)などが出され，それはなぜか教師は児童たちに問い返した(T440)。それに対して，児童たちは，悩みながらも肉の方が長持ちして魚は早く鮮度が落ちるから(C1016, C1017, C1018)という保存上の問題点に関する意見が出された。そうした過程を経て，魚食が減っている理由をクラス全体として整理した。

以上より，当該場面において，魚食の減少という問題が生じる背景には，魚介類が嫌いではないけれども食べたいと思わない意識の存在があり，魚介類を食べたいと思うためには，料理の種類や内容及び味，魚食独自の利点，価格，保存や調理に関する手間ということが問題の争点として導出

されたことがうかがえる。その背景要因として，分析データに基づくと，教師が，当該問題について自分で考えたり他者の考えに触れたりする時間を児童たちに保障したこと，それぞれの児童の生活経験や既存の知識に基づく考えを自由に表現して検討できる場を確保し，多様な考えを尊重する姿勢を示したこと，児童の発話を復唱し，共感したり問い返したりまとめたりしてクラス全体で共有できるように対話を進めたことが挙げられる。

これまで今節で述べてきたことに基づくと，まず，「①問題への着目」の過程では，教師が，社会的課題の存在やその背景に対する児童一人ひとりの私的で多様な生活経験や生活実感及び既存の知識を引き出して対話を進めることにより，児童一人ひとりの私的で多様な生活経験や生活実感及び既存の知識とクラス全体や社会的課題とをつなぐ役割を担うことが重要だと言える。子どもの生活現実を置き去りにしたまま，社会の必要性を子どもに認識させる授業実践事例の多さが指摘されている<sup>6)</sup>が，上記の知見では，教師が児童の生活経験や生活実態及び既存の知識に基づく考えを尊重し，それらを起点にして社会的課題との重なりをとらえて問題を見いだしその背景を検討できるように双方の接続を試みるため，児童が自分事として授業の主題をとらえ，能動的に学習に取り組むことにつながり得ると考える。

次に，「②現状把握・分析」及び「③問題の特定」の過程において，教師は，児童の多様な考えを尊重する姿勢を示しながら，当該問題に対する児童たちの生活経験や既存の知識をもとにした考えを引き出し，対話を進めながら検討して整理することにより，児童の考えと問題の争点の導出とをつないでいく役割が重要だと言える。

## (2) 「④解決の選択肢を出す，解決の選択肢検討」・「⑤決定と行動・省察」

表4は，「④解決の選択肢を出す，解決の選択肢検討」と「⑤決定と行動・省察」にかかわる3時間目の授業場面の逐語録を示したものである。

表4 「④解決の選択肢を出す, 解決の選択肢検討」・「⑤決定と行動・省察」にかかわる授業場面

逐 語 録	
T663: ちょっと自分のアイディア, 今 (タブレットの) 画面ロック解除するので, 見せながらこんなのを考えてみたっていうのを教えてください。	C1452: サバ缶。
C1409: はい。	C1453: (缶詰だと) 骨を取らなくてもよくなるから。
T664: ペアでこの人よかったよって, あとで教えてもらうので。いろいろ質問をしてみてください。	T688: 骨, そもそも全部食べちゃおう作戦だそうです。
C1410: 終わったら, 他の人の…	C1454: 食べちゃおう作戦。
T665: 終わったら質問してみてください。それ, 無理じゃないとか, そこいいねとかっていうのを。	C1455: 骨食べても, なんにも害ないからね。
… (中略) …	T689: はい, ありがとうございます。あと, どうでしょうね。まだ, 途中かな。
T677: 我こそは教えてくれるっていう人いる? なんかこんなアイディア考えてみたんだけど。	C1456: うん。僕めっちゃ途中。
C1432: えー。別にいいけど。	T690: (全員のカードをテレビに映して) 誰かペアでやってみて, これ面白かったとかってある?
T678: あ, いい? じゃあC1432さん, みんなに教えてもらって。前で教えてもらおうかな。	… (中略) …
… (中略) …	T692: (児童たちの様子を見て) C1465さんいい?
C1438: (C1432の続きでテレビにカードを映して) まず, この資料 (インターネット上で収集したデータ) を見てみると, そもそも魚が食べられていない理由の2位に調理が面倒だからっていう理由があります。調理っていうのは, 捌くとか骨を取るっていうのもあると思って。	T693: (当該児童の確認をとって) 前で教えてもらっていいですか。
T684: なるほどね。	C1464: (テレビに映し出されたC1465のカードを見て) C1465とほぼ同じだよ。
C1439: (C1438の続きで) 骨を取るっていうのを追求したら, 骨まで食べちゃおうっていう考えが出てきて。	T694: (テレビを見て) C1465さんの問題は。あー, 先生と一緒にですね。値段が高い問題を解決するために。じゃあ, お願いします。
C1440: えっ, やば。	C1465: 魚の値段が高いから, 魚を増やせば安くなるかなって思って, 養殖とか。あと, お店側が大量に仕入れて, お得に手に入れるとか, そうするのがいいかなって考えた。あと, 加工済みのを食べると, 骨とかが引っかかったりとか, 面倒くさいとかもないから, いいかなと思います。
C1441: (C1439の続きで) まず, 魚の骨を食べるとどうなるかっていうと。とにかく, いろんな栄養素 (カードには「カルシウム・リン・マグネシウム・ビタミンD・鉄分・葉酸・アミノ酸など」と記載) が, 魚とかにもよるけど, 5~20倍近くも摂取量がアップするっていうのがあるらしい。	T695: おーなるほど。ありがとうございます (児童たち拍手)。養殖って何か覚える?
C1442: おお。	C1466: 育てるの, 自分で。
C1443: (C1441の続きで) で, 魚の骨を食べるっていうので, 例えば, サバ缶とか。	T696: ああ, それで増やせば値段は下がる?
… (中略) …	C1467: でも, 費用が大変じゃないかな。
C1450: (C1443の続きで) 缶詰とかでいけますよっていうので, (サバ缶は圧力鍋を使って) 家でも簡単に作れます, っていうのが。	T697: 量が増えたら安くなるのかな。それもあ。なるほどね。大量に仕入れると安くなる?
C1451: さっすがC1432だね。	C1468: まあ, そうなるのかも。
T687: C1432さんは, どうすれば解決だと? 骨が面倒くさいから…	C1469: でも, 食べられなかったら結局食品ロス。
	T698: そうね。そうなるよね。難しいよね, そのバランス。
	C1470: (安く) 買えるだけでありがたい人はいる。
	T699: あー。大量に仕入れることで安くなって, それで, ありがたい人もいると。なるほど。じゃあ, まだ (作業の) 途中?
	… (中略) …
	T702: じゃあ, 次回完成にしたいと思います。自分たち, 魚食これしたら増えると思えますっていう考えを作って, 送ってもらおうかな。C1477さんはレシピメニューをいろいろ見てた。魚のパックにQR付けるんだっけ?
	C1477: そう。

T703：それを読み取ったら、レシピがすぐ出てくるとか。

C1478：QRコードあっても、読み取らないから、もう流しておけばいいんじゃない。

T704：あー、動画で流しく。

C1479：何かあるよね。魚の作る何か。

上記の場面の前まで、児童たちは、どうしたら問題を解決することができるか予想した上で、個人でタブレットを使って解決につながる情報を調べ、ペアで共有・検討しながらロイロノート・スクールのカードにまとめていた。教師は、ロイロノート・スクールを介して個人思考の内容を把握し、いくつかの内容を全体の場で取り上げて、現実可能な解決方法の検討を進めた。

まず、教師は、C1432の発言を取り上げて表現させる機会を設け、魚の骨を取るのではなく食べることにより様々な栄養素がとれるため、問題の解決策として魚の缶詰を食べることを推し進めるという考え（C1438・C1439・C1441・C1443・C1450）に対して共感を示し（T684）、その考えを他の児童たちによりわかりやすくなるようにまとめた（T688）。この考えは、前時に導出された魚食の減少という問題の争点の中でも、魚食独自の利点に対しては栄養素への着目、保存や調理に関する手間に対して缶詰の利用という視点を提案したと言える。児童たちもそうした考えに基づく教師のまとめに共感していた（C1454・C1455）。

次に、教師は、ペア活動で面白いと感じたアイデアを募り（T690）、児童たちの反応に基づきC1465の考えを表現させる機会を設け、養殖で魚を増やしたり、小売店が大量に魚を仕入れたりすることで魚の価格が安くなることや、魚が加工されたものを食べると骨が引っかかることや処理の手間を省けるという考え（C1465）に対して共感を示した（T695）。この考えは、問題の争点の中でも、価格に対しては魚の生産段階や販売段階への着目、保存や調理に関する手間に対して加工済みの魚に関する食品の利用という視点を提案したと言える。教師は、社会科での既習事項である養殖について問い返し、その内容を確認した（T

695）。児童からは、養殖にかかる費用面の問題に関する考え（C1467）が表出された。また、教師は、小売店が大量に魚を仕入れることについて問い返し（T697）、売れ残ったり食べられなかったりすることによる食品ロスの問題（C1469）がある一方で、安く買えるだけでありがたく感じる人もいるという意見（C1470）が児童たちから表出され、それを復唱したり共感したりしながら検討を進めた（T699）。

また、教師は、前時に導出された問題の争点としてまだ触れられていない料理の種類や内容及び味に対してQRコードを活用した魚のレシピの周知という提案（C1477）を全体で取り上げた（T702）。児童からは、その提案に共感を示しつつ、魚料理の作り方の動画を小売店で流しておくという新たな考え（C1478）が出されていた。

以上より、当該場面において、児童たちは、魚食の減少という問題の争点に対する考えや提案を現実的に可能かどうかという視点から検討できたことがうかがえる。その背景要因として、抽出したデータに基づくと、教師が、それぞれの児童の考えを自由に表現させる場を確保したこと、児童の発話を復唱し、共感したり問い返したりまとめたりして全体共有できるように対話を進めたことが挙げられる。その中で、児童たちの自発的な発話による議論も行われ、例えば、C1465の考えに批判的な視点から見解を述べるC1467、C1467の考えを問い返した教師の発話（T697）に対して同意を示すC1468や問題点を指摘するC1469及びこれまで出た見解とは異なる見方から多様な立場の側に立ったC1470、T702の考えを受けてその考えをより現実的に人々のニーズを想像して新たな提案を試みたC1478などの発話も生まれた。これより、児童たちは、自分の考えとは違う他者の考えを受け止め尊重した上で、他者の考えがよりよくなるように批判的な視点を含む自分なりの考えを議論し合ったことが推察される。

このことに基づくと、「④解決の選択肢を出す、解決の選択肢検討」の過程において、教師は、問題の争点に対する児童たちの考えを尊重する姿勢

を示し、それぞれの児童の考えとクラス全体とをつなぐ役割を担うことが重要だと言える。

また、本授業では「⑤決定・行動・省察」の過程の「決定」までしか至らなかったが、分析データに基づけば、児童たちは、3時間目から4時間目にかけて、問題の争点に対する考えや提案の選択肢を検討し合い、魚を食べる人が増えるための自分の考えを決定し、ロイロノート・スクールのカードにまとめていった。その内容を4時間目に全体で共有し合い、人々が個人としてできること（缶詰の購入、骨やうろこをとった状態の商品の購入、SNSを通した魚の安売り情報の共有など）や、企業ができること（魚のよいところや料理の宣伝、魚のパックに魚料理のレシピが載ったQRコードの添付と小売店内での魚の料理方法を紹介する動画の放映、小売店での試食を通して魚のおいしさをアピール、子ども養殖体験の実施による魚への興味関心の向上、魚の骨が簡単に取れるグッズの販売など）が出された。また、児童が自分自身でできることとしては、魚を残さないで食べる、地域の魚を食べる、骨せんべいをお菓子代わりにする、缶詰の魚を食べるなどが挙げられたが、まだ小学生の自分だと魚の良さを伝えられることは限られるという意見もあがった。教師は、こうした児童たちの意見を引き出し、復唱したり問い返したり、情報を付け加えたりしながら、授業を進めていた。

## 5. 結論

本稿では、家庭科におけるシティズンシップ教育実践の展開過程に基づき小学6年生を対象にした授業を構想し、その実践を通して授業の中での教師の姿勢と役割を検討することを目的とした。

その結果、家庭科におけるシティズンシップ教育実践の展開過程に基づいた授業において、①児童の私的で多様な生活経験や生活実感及び既存の知識を尊重し、それらを起点とした対話的な授業展開を重視する教師の姿勢、②児童の私的で多様な生活経験や生活実感及び既存の知識に基づく個

人の考えとクラス全体、社会的課題、問題の争点とをつなぐ教師の役割、という点が重要であることが授業実践から示唆された。これらの知見は、「1. 目的」で取り上げた土岐らの研究による知見の①及び②と符合し、本稿を通して家庭科におけるシティズンシップ教育実践の展開過程で教師がとる姿勢や果たす役割として重要であることが示唆されたと言える。また、先述した本稿の知見は、「1. 目的」で述べた家庭科におけるシティズンシップ教育実践の課題に対して、さらに検討する余地は残されているものの、児童たちが問題の争点に対する考えや提案を批判的な視点を含む様々な見方から議論や対話ができるための教師の姿勢と役割を示唆したものだと考えられる。

こうした教師の姿勢と役割は、当該授業だけのものではなく日頃から教師と児童、児童間での信頼関係構築に努める学級経営を行っていることと連動していることが分析データからうかがえる。こうした学級経営を基盤に、教師は、あらゆる教科等の授業で児童たちが自分の考えを安心して自由に表現できる雰囲気や環境を構成してきたことが考えられる。

ただ、「4. 結果」でも述べたが、本稿で対象とした授業では、「⑤決定・行動・省察」の過程で「決定」の段階に留まった。「行動」や「省察」につなげていくために、教師がどのような姿勢をとったり役割を果たしたりすることによって、児童たちは問題解決の見通しや展望をもちながら、問題の争点に対する自分たちの考えや提案が社会的に受け止められ、何らかの影響を及ぼすことを実感できるのか、という視点が重要だと考える。

「1. 目的」で取り上げた土岐らの研究では、授業の主題の空間軸がクラス全体や学校全体を射程に入れていたため、教師は「③児童の考えを可能な限り実現させる教師の姿勢」を示し、児童たちに問題解決の見通しや展望をもたせながら学習を展開することが可能であった。本稿で対象とした授業の主題の空間軸は、学校内に留まらず地域や社会に拡張しており、その中で教師が前記の③の姿勢を示すことはそう簡単にできることではな

い。空間軸の対象が地域や社会に拡張した授業の主題を扱う場合、教師は、児童たちが問題解決の見通しや展望をもって学習に取り組めるために、どのような姿勢をとったり役割を果たしたりすることにより、どのような学習空間の構成を志向することが必要なのか検討することが今後の課題である。

に対する視点を中心に、日本家庭科教育学会誌、2008、Vol.51、187-189

## 付 記

本研究は、JSPS科研費21K02592の助成を受けたものである。

(土岐 圭佑 釧路校准教授)  
(坂下 眞美 附属釧路義務教育学校教諭)  
(山崎 博幸 附属釧路義務教育学校教諭)

## 脚 注

\* 1 株式会社LoiLo発行の製品パンフレット ([https://assets.loilo.tv/loilonote/pdf/LNS\\_pamphlet.pdf](https://assets.loilo.tv/loilonote/pdf/LNS_pamphlet.pdf)) によると、ロイロノート・スクールとは、児童・生徒が主体的に学び合う双方向授業を実現し、思考力・判断力・表現力を育成する授業支援クラウドのことである。主な特徴としては、自分の考えをカードに書き、それらを整理することで学びを振り返れること、カード同士をつなげてプレゼンテーション資料が作成できること、シンキングツール上にカードを置くことで思考を可視化し、アイデアの発散と収束を行って考えを作り出せること、個人で作成したデータの複数人での共有や児童・生徒同士のファイル交換ができることが挙げられる。

## 引用文献

- 1) 望月一枝、シティズンシップ教育と教師のポジションナリティー家庭科・生活指導実践に着目して一、勁草書房、2012、24-25.
- 2) 土岐圭佑、家庭科でシティズンシップを育む学年段階別指導目標と内容、日本家政学会誌、2016、Vol.67、461.
- 3) 同上
- 4) 小玉健太、吉田奈保美、荒井紀子、伊禮三之、松田淑子、山本博文、橋本康弘、「社会参加・問題解決型授業」を通した市民性育成に関する研究—2011・2012年度協働実践研究プロジェクトでの取り組みから、福井大学教育実践研究、2012、Vol.37、31-42.
- 5) 土岐圭佑、山崎博幸、坂下眞美、家庭科におけるシティズンシップ教育実践の展開過程の具体的検討—小学5年生を対象とした授業実践より—、北海道教育大学紀要(教育臨床編)、2023、Vol.74、印刷中
- 6) 伊波富久美、浅井玲子、國吉真哉、久保加津代、倉元綾子、立山ちづ子、福原美江、宮瀬美津子、桑畑美沙子、九州・沖縄の「生活課題」「生活文化」にかかわる家庭科の授業研究(第2報):学習者自身の生活課題